

いよ～よ、この芸わざ い よ かすり 伊予いよ 緣わたりに迫る

伊予の民芸品の一つに、庶民の生活で栄え、日本の三大紺にも選ばれた「伊予紺」があります。
約210年続く伝統の芸と現代の取り組みについてお伝えします。

三大紺とは

日本の三大絣は福岡の久留米絣、広島の備後(びんご)絣、そして愛媛の伊予絣です。伊予絣は染色の対象が綿ですが、久留米絣と備後絣は綿の他に絹も使っています。



伊予紺の考案者「鍵谷力ナ」の銅像

伊予縫とは

始まりは享和年間（一八〇四）に、温泉郡垣生（はきのう）村今出（いまで）の鍵谷力（かぎやちから）によつて生み出された今出縫（いまでぬい）た。代表的な柄は、井桁（いりげ）や玉文様（ぎょくもんじょう）や麻文様（まもんじょう）などで、色彩（いろと）は白と藍（あい）の組（ぐみ）わせが特徴（とくちょう）です。

**伊予縫について知るなら
伊予かすり会館**

住所 松山市久万ノ台 1200番地

営業時間 8:00～16:00
(年中無休)

入場料 大人100円
小・中・高校生 50円

TEL 089-922-0405



初期の機織り機「居挫機（いざり機）」

伊予絣の反物

まずは綿でできたり、ハンカチに糸を入れたいたりして、模様をつけたりするための準備をします。糸の巻き方やビーチ玉の数、ハンカチの畳み方で模様が変わるもので、準備ができるといいます。糸の巻き度によつてうまく染まるかどうかが決まります。染料にも生きものと同じように、「調子」があります。調子が悪いとうまく染まらず、混ぜ方ひとつで調子が変わるものだそうです。染める時は一回につき一分間、藍に浸け、糸を巻いた所以外が空気に触れるようによく揉みます。藍染めは空気に触れたり、触れない所が酸化して染まり、触れないまま残ります。



完成!! これは漆!! おしゃれ!!

体験してみて

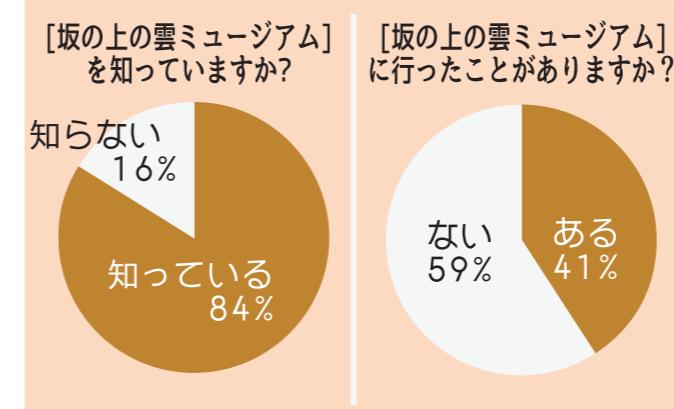
私は初め、藍染めは糸で括って染めるだけなのかなと思っていたが、染料に浸けて揉むことで染まって模様が変わることを知り、驚きました。また、染料の色も藍色というより、少し黒っぽい色であることや、天然の藍がとてもデリケートであることも初めて知りました。伊予絣の歴史や作り方、利用法などについてのお話を伺い、その魅力を知ることができました。（繩田）



“藍染め”ってどんなもの?
伊予かすり会館にて私たちが実際に体験してきました！



染色中



松山風味の スイーツ



坂の上の雲ミュージアム
名物「ふるさとの空～和
三盆栗ロール」土・日・祝
日限定、1日20セットが
よ!!

◆山本湧太
新聞づくりは私にとつて
初めて尽くしでした。そう
した中、普段の生活では気
付かないような松山の良さ
に気付かせていただき、感
動の連続でもありました。
私たちの身近にある「まつ
やま」という存在をもつと
深く多くの方へ知つて頂け
るよう今後とも頑張つてま
ります。

▼清家 寛幸

▼武田 将成

今回初めて活動させてもらいましたが、本当に分からぬことばかりでした。取材でも記事作りでも大変な部分はありましたが、その反面松山市という街の実態などを、活動をきっかけに学ぶことができました！これからも皆様に良い新聞をお見せできるよう精一杯頑張ります！

今回、初めて新聞制作に
関わらせていただきました。
松山に来て、2年が経ちます
が、まだまだ知らないこと
ばかりです。未熟ではあり
ますが、自分自身も松山のこ
とを学びつつ、たくさんの
人に魅力を伝えられるよう
に頑張ります。

編集後記

